

## 文化・芸術

### 「顔（自画像）」

1940年12月、油彩・板  
33・0cm×23・5cm（個人蔵）

#### 松本竣介（1912〜48年）

1940年10月、松本竣介は、数寄屋橋の日動画廊で初めての個展を開催しました。それから2カ月後に完成したのが本作です。この時28歳。これまでの人と街のイメージを重ねた叙情感のただよう画風とは明らかに異なる画法によって描かれています。

彼の画歴を二分する分岐点ともいわれる本作は、41年9月に開催された二科展に、100号大の「画家の像」（41年1月、宮城県美術館蔵）と並べ出品されました。

時代はこの頃から戦時色を強めていきます。竣介にとって自身と対峙（たいじ）し、自分の「顔」を描くということは、どのような意味を持っていたのでしょうか。自画像をめぐっては、今なお多くの議論が続いています。

本作は現在、再見された竣介のアトリエ内の壁面でご覧いただけれます。傍らにはアトリエで使用していた手鏡も置かれています。この場で本作と対すると、竣介その人がまさにここに居るような異様なまでの存在が感じられるものです。

1年を通して四つのテーマで展覧してきた松本竣介展も会期終了まであと4日となりました。どうぞお出かけください。

（小此木）

### 名画の扉

大川美術館企画展から

